

『 禅のこころ - 曹洞宗 - 』

だいほんざんそうじじそいん
大本山總持寺祖院

平成31年2月第4週放送

曹洞宗には大本山が二つあります。一つは道元禅師が開かれた、福井県にあります大本山永平寺。もう一つは瑩山禅師が開かれた横浜市鶴見にあります大本山總持寺です。この二つを両大本山と呼び、多くの僧侶が修行の日々を送っています。

さて、大本山總持寺は、明治四十四年（一九一一年）に現在の横浜市鶴見に建立されました。ここで、なぜ建てられてから百年と少ししか経っていないのに大本山と呼ぶのか、という疑問が起こるのではないのでしょうか。

実は、大本山總持寺は、元々は能登^{のと}、現在の石川県輪島市門前町^{わじましもんぜんまち}にありました。その頃、永平寺を出られた瑩山禅師は、元は真言宗のお寺だった金沢の大乗寺^{だいじょうじ}に移り、さらに石川県羽咋市^{はくい}に永光寺^{ようこうじ}を建てられ、能登半島を中心に曹洞宗を広めていました。その過程で、それまでは曹洞宗ではない寺院を、曹洞宗へと改宗することもありました。

輪島市門前町^{わじましもんぜんまち}には、真言宗の諸嶽寺（しよがくじ）、通称諸嶽寺（もろおかでら）というお寺があり、住職^{じゅうけんりつし}の定賢^{じょうけんりつし}律師はお寺の護持に苦慮されていた、と伝わっています。そこで定賢^{じょうけんりつし}律師は、同じ真言宗であった大乗寺^{だいじょうじ}の元の住職に相談され、また瑩山禅師の弟子、峨山禅師に曹洞宗の良い所などを聞き、諸嶽寺^{しよがくじ}を瑩山禅師に譲られる決意を固めたといわれています。

一三二一年、瑩山禅師は、このお寺を諸嶽山總持寺^{しよがくさんそうじじ}と名前を改められ、広大な土地の中に、観音様をお祀りする本堂のみであったこのお寺に、山門を建てるなど寺院整備をすることを念願したそうです。禅師五十七歳の頃と伝わっています。後に時の朝廷より曹洞宗の修行道場として認められ、隆盛を極めました。

時は移り、明治三十一年（一八九八年）四月、火災が発生し總持寺はほとんどの伽藍^{がらん}が消失しました。この時、曹洞宗として瑩山禅師の想いは、広く人々に仏の教えを伝えることにある、とのお示し^くを汲み、火災から十三年後、能登の地から関東、横浜鶴見の地へ移転したのが現在

『 禅のこころ - 曹洞宗 - 』

の大本山總持寺です。

その後、能登の總持寺は、明治の火災や平成の地震からの復興を遂げ、大本山總持寺祖院^{そいん}として現在に至っています。

過日、大本山總持寺にて行われた大遠忌^{だいおんき}のテーマは相承（そうじょう）という言葉でした。意味は、師匠から弟子へ仏の教えを受け継ぎ伝えていくこと。

何年掛けても、揺ぎ無い仏の教えは、ご家庭においても受け継ぎ伝えてゆきたいものです。

— 終 —